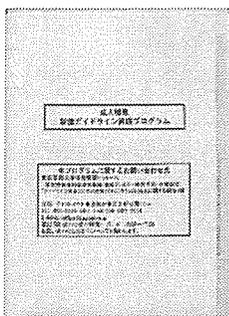
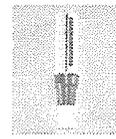
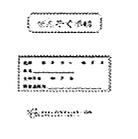


## 成人喘息ガイドライン実践プログラム



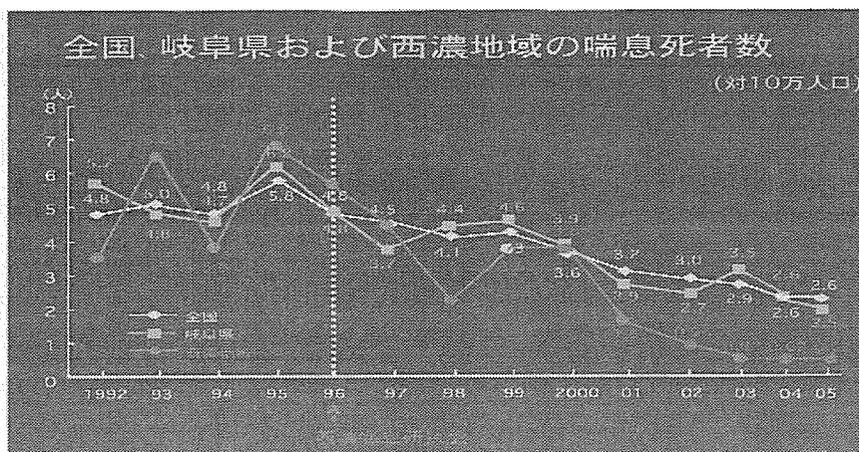
1. 実践プログラム概要
2. QOL調査の手順
3. 重症度判定フローチャート
4. 治療薬判定フローチャート
5. 成人喘息QOL票(AHQ-33)
6. 一般医のための喘息ガイドライン2006
7. 患者向け喘息小冊子
8. ピークフローと喘息日誌



## 分担研究者の個別研究の成果

1. 大田：喘息GL2006の発刊。アンケート、QOL調査。
2. 長谷川：成人喘息QOLと客観的指標の不一致。
3. 海老沢：GL啓発は講演会より少人数勉強会が効率的。  
非専門医向け平易な実践的GLが必要。
4. 大久保：鼻炎アレルギー-QOLの改善効果。
5. 朝比奈：アトピー性皮膚炎のQOL調査進行中。
6. 岩本：喘息救急治療後の経口ステロイドの有用性。
7. 堀場：岐阜西濃連携モデルと喘息死の減少。
8. 永田、岡田、庄司：成人喘息QOL調査進行中。
9. 森：アンケートとQOL集計と解析。

## 地域の診療連携による喘息死の減少 (患者中央登録、患者カード、GL普及)



岐阜西濃喘息研究会(分担研究者:堀場)

## 平成18年度の研究内容

1. アンケート調査
  - 1)アレルギー疾患GLに関する実態調査
  - 2)アレルギー診療施設の診療連携の実態調査
2. QOL向上のエビデンス
  - 1)専門医によるQOL調査
  - 2)非専門医によるQOL調査
3. 情報提供(GL普及)と相談体制の研究
  - 1)各種GL教材・小冊子の作成・配布
  - 2)インターネットの活用推進

対象別・各種アレルギーGL教材・小冊子の作成と配布

教材／対象	一般医	コメディカル	患者・市民
成人喘息	○	作成中	作成中
小児喘息	○	作成中	○
鼻アレルギー	○*	○	○
アトピー皮膚炎	○*	○	○
食物アレルギー	○	未定	○*
蕁麻疹	○	未定	○
配布先	教育認定施設 研修会	教育認定施設 国・自治体	アレルギー 週間の講演会

\* 厚労省 他研究班作成

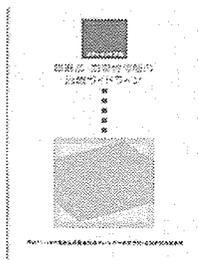
医療者向け：アレルギー学会認定教育387施設  
国・自治体へ配布(2007年2月)

連携「かかりつけ医」、研修医、院内非専門医、コメディカルの啓発

一般医向け喘息  
診療ガイドライン  
2006



プライマリケア版  
蕁麻疹・血管浮腫  
治療ガイドライン



コメディカル向け  
鼻アレルギー診  
療ガイドライン



コメディカル向け  
アトピー性皮膚炎  
診療ガイドライン



患者向け:アレルギー週間市民公開講座(2007年2月)  
全国10地区34会場(参加者約2000名)



## インターネットWeb2.0 活用の情報提供と収集 日本アレルギー喘息・ネットワークのWeb運営支援

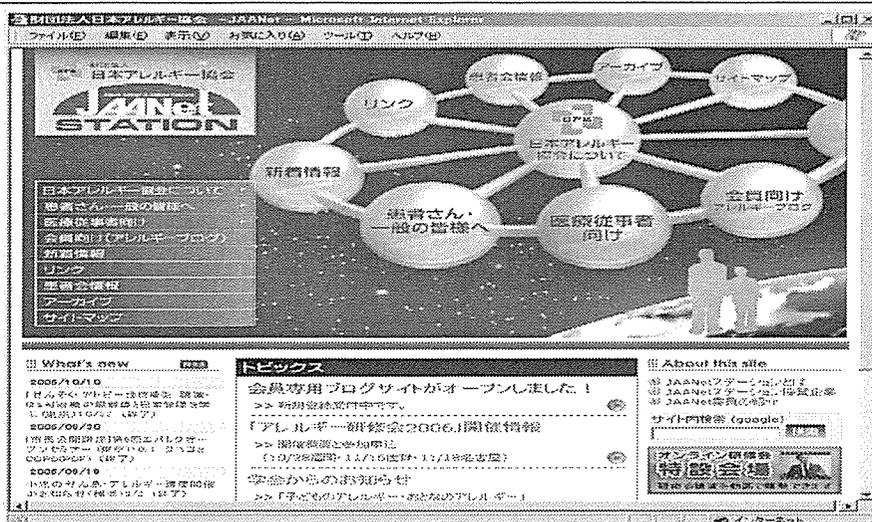
1. アレルギー診療GLの情報提供(一方向放送型:JAANet)
  - ・ アレルギー研修会・市民公開講座の案内(H17、18年)  
アレルギー疾患の解説、Q&A
  - ・ 「ガイドライン総合情報館」のサイト
    - ・ 各種GLの教材・小冊子のPDF掲載
    - ・ オンラインGL実践プログラム(動画解説)
  - ・ 「慢性呼吸器疾患・情報センター」のサイト(英語版)
2. 患者の情報収集・提供(患者参加・双方向・情報共有型)
  - ・ アレルギーブログ・SNSサイト
    - ・ 日記風簡易型ホームページ
    - ・ ネット相談システム
    - ・ ネット調査・即時開票システム
  - ・ 花粉症・喘息症状Web2.0実況サイト

# インターネットによるGL普及とネット相談システム 日本アレルギー・喘息ネットワーク(JAANet)

1. インターネットによるGL情報提供
  - 1) ガイドライン総合情報サイト
  - 2) 「慢性呼吸器疾患・情報センター」のサイト
2. 患者の情報収集・提供(患者参加・情報共有)
  - 1) アレルギーブログ・SNS(会員制サイト)と  
ネット相談システムの構築。
  - 2) 花粉・喘息症状Web実況サイト

## アレルギー・喘息ネットワーク(JAANet)

厚労省所管財団法人・日本アレルギー協会



# アレルギーガイドライン総合情報サイト

Copyright © 2004-2006 KYOWA KIKAKU Ltd. All rights reserved.

# アレルギーブログ・SNS



## H18年度の研究成果のまとめ

### アンケート調査

1. GL普及の実態調査：開業医のGL利用が低い。
2. 診療連携の実態調査：専門医不足、開業医の熱意に格差、利用度向上に少人数勉強会が有効、アレルギー標榜医の信頼性に疑問。

### GL診療とQOL向上研究

3. GL治療とQOL調査：QOL向上のデータ累積中。
4. 地域・診療連携とGL普及：喘息死減少とQOL向上。

### 情報提供と相談体制の研究

5. 対象別・各疾患別のGL小冊子：作成・配布。
6. インターネットの活用：GL情報提供サイトの開設。  
ブログ・相談システムの構築。

## 最終年度・研究継続の目標

- GLに関する実態調査の継続。(利用度が低い理由)
- アレルギー科標榜・「かかりつけ医」の実態調査。
- QOL向上研究の目標症例数の達成とエビデンス獲得。
- 連携パス、患者カード、実践プログラム、電子カルテを利用した診療連携によるGL普及とQOL向上。
- インターネットの活用推進、ブログ相談の検証。

## アレルギー疾患ガイドラインに関するアンケート調査票

平成 年 月 日

講演会場：

所属医師会：

(可能であればご記入ください)

————— 選択項目を○でお囲み下さい。 —————

1. 先生のご年齢 ( 歳 )
2. ご性別 ( ①男性、 ②女性 )

A. 専門性について

1. ご勤務の形態について。
  - ① 開業医 ② 勤務医 (病院規模：200床未満、200～400床、400床以上)
2. 専門とされる、あるいは標榜されている領域をお選び下さい。(複数回答可)
  - ① 内科 ② 外科 ③ 小児科 ④ 耳鼻科 ⑤ 皮膚科 ⑥ 眼科
  - ⑦ 整形外科 ⑧ 産婦人科 ⑨ 泌尿器科 ⑩ 精神科 ⑪ 脳外科
  - ⑫ アレルギー科 ⑬ 呼吸器科 ⑭ リウマチ科
  - ⑮ その他 ( \_\_\_\_\_ )
3. かかりつけ医 (家庭医) と専門医、どちらの立場で診療されていますか。
  - ① かかりつけ医 (家庭医) ② 専門医 ③ 両方
4. 日本アレルギー学会認定のアレルギー専門医について。
  - ① 現在、専門医である ② 将来、資格をとることを考慮中である
  - ③ 資格を取る予定はない
5. 日本呼吸器学会認定の呼吸器専門医について
  - ① 現在、専門医である ② 将来、資格をとることを考慮中である
  - ③ 資格を取る予定はない
6. 喘息、アレルギー性鼻炎 (花粉症を含む)、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹などのアレルギーの患者様を診察されることがありますか。
  - ① よくある ② ときどきある ③ あまりない ④ ほとんどない

7. 初診のアレルギー患者様が受診された時、どのようにされますか。

- ① 全て専門医に紹介する
- ② 暫くは治療して、改善しなければ専門医に紹介する
- ③ 最後まで診療する

8. 通院中の患者様を専門医に紹介される場合はどんな時ですか。(複数回答可)

- ① 3ヶ月以上経過しても、症状がコントロールが出来ないとき
- ② 重症で症状悪化を繰り返し、救急外来受診・入院を繰り返すとき
- ③ 経口ステロイド薬、高用量吸入ステロイド薬の長期投与が必要な場合
- ④ 症状が典型的でなく、鑑別が必要なとき
- ⑤ 困難な合併症を伴う場合
- ⑥ さらに検査が必要な場合
- ⑦ さらに患者教育が必要な場合
- ⑧ 免疫療法が必要な場合
- ⑨ 職業性、アスピリン過敏、食物アレルギーなど特殊な原因の場合
- ⑩ その他 ( \_\_\_\_\_ )

## B. 「アレルギー疾患の診療ガイドライン」についてうかがいます。

1. 学会あるいは厚生労働省の作成したアレルギー疾患の診療ガイドラインがあることをご存じですか。知っているガイドラインの疾患名を○で囲んで下さい。(複数回答可)

- ① 成人喘息
- ② 小児喘息
- ③ アレルギー性鼻炎
- ④ アトピー性皮膚炎
- ⑤ 蕁麻疹
- ⑥ 食物アレルギー
- ⑦ 全て知らない

2. 知っているとお答えの先生に、実際に内容はどの程度までご存じでしょうか。

- A) 成人喘息 : ①よく知っている、②おおよそ知っている、③少し知っている
- B) 小児喘息 : ①よく知っている、②おおよそ知っている、③少し知っている
- C) アレルギー性鼻炎 : ①よく知っている、②おおよそ知っている、③少し知っている
- D) アトピー性皮膚炎 : ①よく知っている、②おおよそ知っている、③少し知っている
- E) 蕁麻疹 : ①よく知っている、②おおよそ知っている、③少し知っている
- F) 食物アレルギー : ①よく知っている、②おおよそ知っている、③少し知っている

3. どのような機会でガイドラインをお知りになりましたか。

- ① ガイドライン教本
- ② 各専門学会に出席
- ③ 学会機関誌
- ④ 各学術講演会
- ⑤ 医師会生涯教育、⑥ 医学専門書、⑦ 一般医学雑誌、⑧ 各種パンフレット、
- ⑨ インターネット、⑩ 新聞、⑪ テレビ放送、⑫ ラジオ放送、
- ⑬ 製薬メーカーMR、⑭ その他 ( \_\_\_\_\_ )

4. 実際に診療に利用（準拠）されているガイドラインを○で囲んで下さい。

- ① 成人喘息 ②小児喘息 ③アレルギー性鼻炎 ④アトピー性皮膚炎 ⑤蕁麻疹  
⑥ 食物アレルギー

5. 前回のアレルギー研修会にご参加された先生にお伺いします。

その研修会のあと、ガイドラインに対する認識、それを利用する機会が増えましたか。

認識 : ① 高まった ②変わらない ③ 減った

利用度 : ① 高まった ②変わらない ③ 減った

6. 利用されている先生に、ガイドラインは分かり易い、使い易いと感じられますか。

- A) 成人喘息 : ①分かり易い ②どちらでもない ③分かりにくい  
B) 小児喘息 : ①分かり易い ②どちらでもない ③分かりにくい  
C) アレルギー性鼻炎 : ①分かり易い ②どちらでもない ③分かりにくい  
D) アトピー性皮膚炎 : ①分かり易い ②どちらでもない ③分かりにくい  
E) 蕁麻疹 : ①分かり易い ②どちらでもない ③分かりにくい  
F) 食物アレルギー : ①分かり易い ②どちらでもない ③分かりにくい

7. 疑問である、分かりにくい、使いづらい点はどんなところでしょうか。  
(記述式)

8. ガイドラインが奨めるアレルギー患者様の啓発、教育に力を入れていられますか。

- ① 積極的に行っている ② 結構している ③ あまりしていない  
④ ほとんどしていない

9. 8の質問で③、④を回答された場合の理由をお選び下さい。

- ① 時間が不足 ② 余り必要と思わない ③ 内容をよく知らない  
④ 良い教材がない ⑤ 患者が応じない ⑥ その他 ( \_\_\_\_\_ )

10. 喘息の患者様に吸入ステロイド療法を行っていますか。

- ① ほとんどの患者に行っている ②半分ぐらいの患者に行っている  
③ 少数の患者に行っている ④ していない

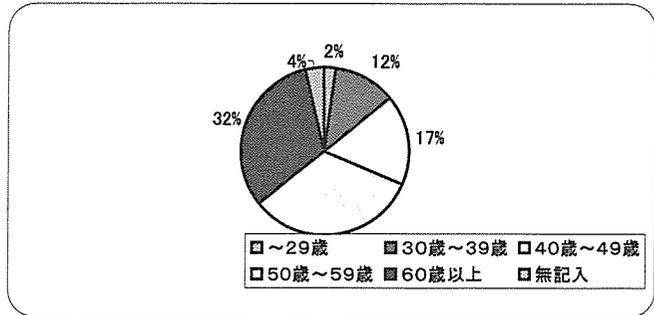


「アレルギー研修会」および「各ガイドライン」に関するアンケート集計表

研修会場:福井・東京・松江・岡山・横浜・松山

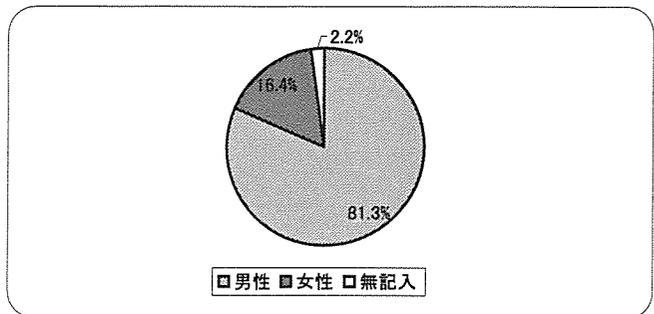
1. 先生のご年齢

～29歳	3
30歳～39歳	16
40歳～49歳	23
50歳～59歳	44
60歳以上	43
無記入	5
合計	134



2. ご性別

男性	109
女性	22
無記入	3
合計	134



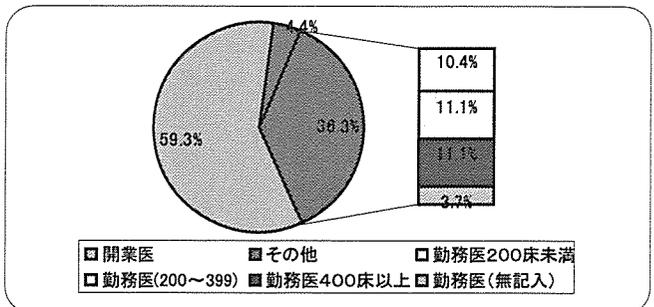
A. 専門性について

1. ご勤務の形態について

開業医	80	
勤務医	200床未満	6
	200～399床	14
	400床以上	15
	無記入	15
その他	5	
合計	135	

その他:無記入2

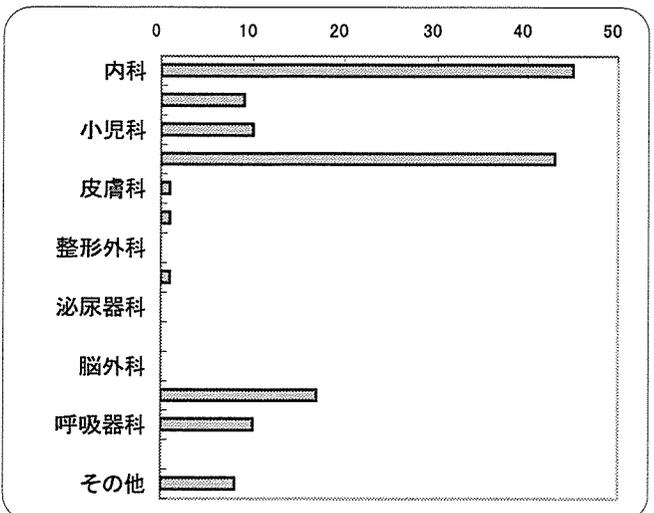
1人開業医と勤務医が重複している



2. 専門とされる、あるいは標榜されている領域をお選び下さい(複数回答可)

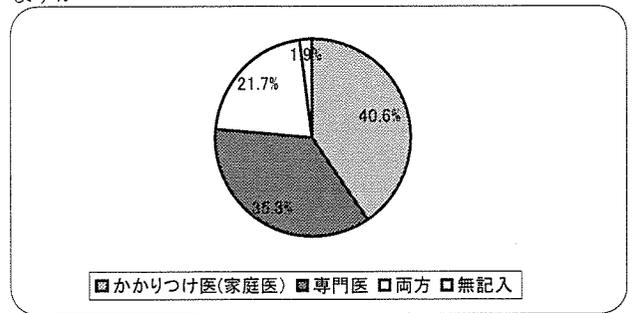
内科	45
外科	9
小児科	10
耳鼻科	43
皮膚科	1
眼科	1
整形外科	0
産婦人科	1
泌尿器科	0
精神科	0
脳外科	0
アレルギー科	17
呼吸器科	10
リウマチ科	0
その他	8

その他:消化器科、気管食道科、疼痛治療科、放射能科  
胃腸科、麻酔科、老健勤務、循環器科



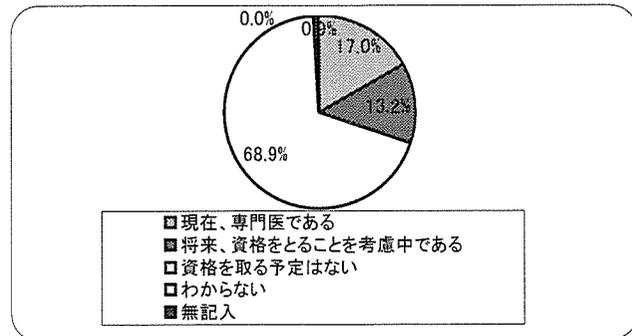
3. かかりつけ医(家庭医)と専門医、どちらの立場で診療されていますか

かかりつけ医(家庭医)	43
専門医	38
両方	23
無記入	2
合計	106



4. 日本アレルギー学会認定のアレルギー専門医について

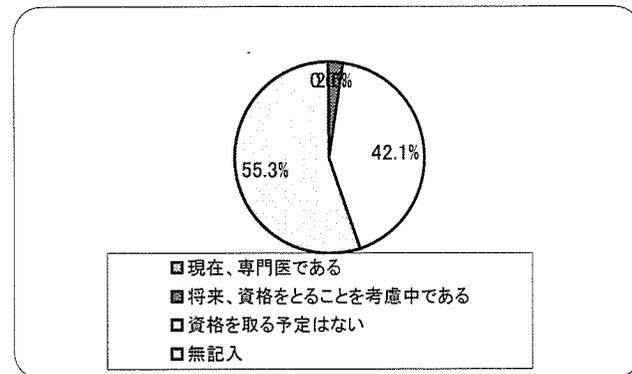
現在、専門医である	18
将来、資格をとることを考慮中である	14
資格を取る予定はない	73
わからない	0
無記入	1
合計	106



(5. 日本呼吸器学会認定のアレルギー専門医について)

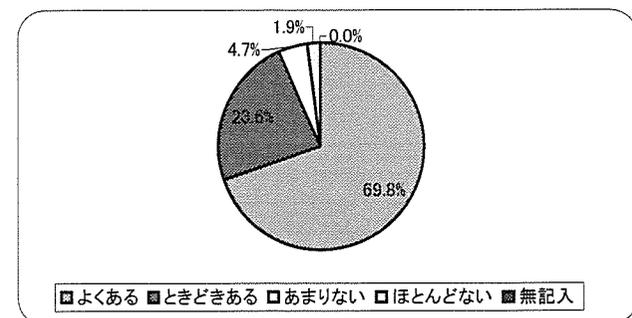
現在、専門医である	0
将来、資格をとることを考慮中である	1
資格を取る予定はない	16
無記入	21
合計	38

※東京都、横浜のみの設問



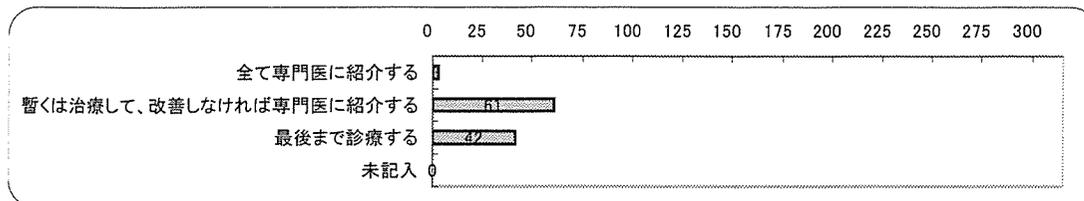
5. 喘息、アレルギー性鼻炎(花粉症を含む)、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹などのアレルギーの患者様を診察されることがありますか

よくある	74
ときどきある	25
あまりない	5
ほとんどない	2
無記入	0
合計	106



6. 初診のアレルギー患者様が受診された時、どのようにされますか

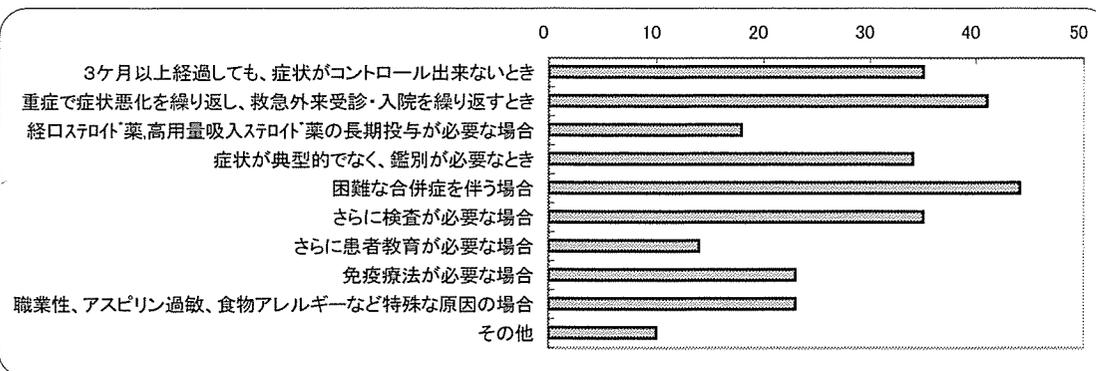
全て専門医に紹介する	3
暫くは治療して、改善しなければ専門医に紹介する	61
最後まで診療する	42
未記入	0



7. 通院中の患者様を専門医に紹介される場合はどんな時ですか(複数回答可)

3ヶ月以上経過しても、症状がコントロール出来ないとき	35
重症で症状悪化を繰り返し、救急外来受診・入院を繰り返すとき	41
経口ステロイド薬、高用量吸入ステロイド薬の長期投与が必要な場合	18
症状が典型的でなく、鑑別が必要なとき	34
困難な合併症を伴う場合	44
さらに検査が必要な場合	35
さらに患者教育が必要な場合	14
免疫療法が必要な場合	23
職業性、アスピリン過敏、食物アレルギーなど特殊な原因の場合	23
その他	10
未記入	17

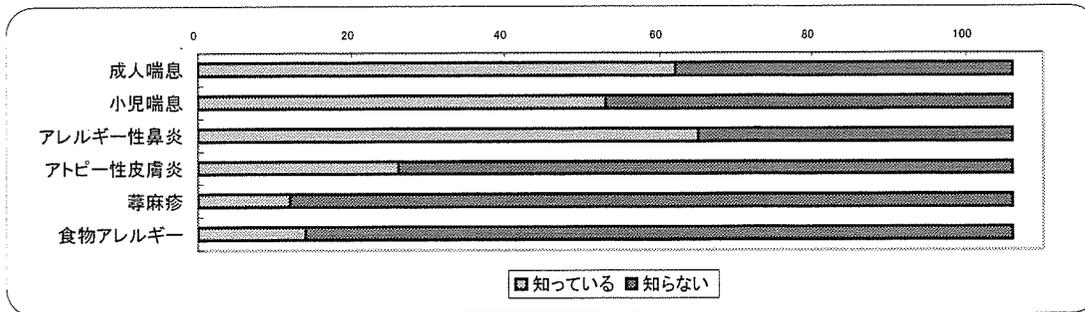
その他:手術が必要な時3、手術を要する時のみ手術を依頼する手術によっては自分でもする、全て当院で対応している、患者の希望  
 大体 まで診ています、当方が最終治療施設です



B. 「アレルギー疾患の診療ガイドライン」についてうかがいます

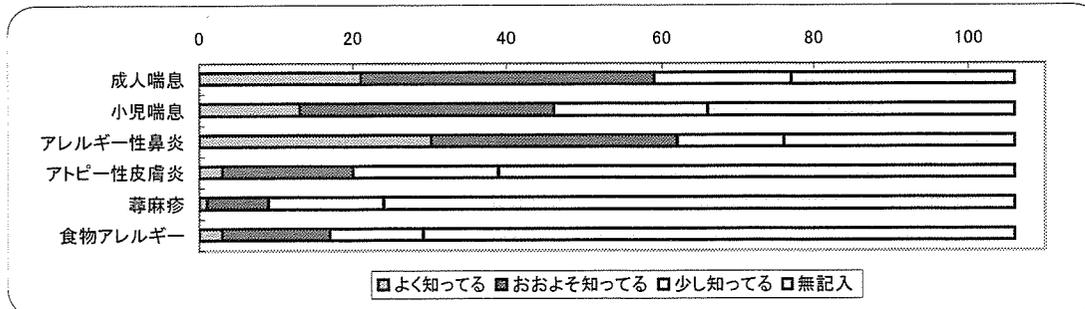
1. 学会あるいは厚生労働省の作成したアレルギー疾患の診療ガイドラインがあることをご存じですか  
(複数回答可)

知っている	成人喘息	62
	小児喘息	53
	アレルギー性鼻炎	65
	アトピー性皮膚炎	26
	蕁麻疹	12
	食物アレルギー	14
全て知らない		3



2. 知っているとお答えの先生に、実際に内容ほどの程度までご存じでしょうか

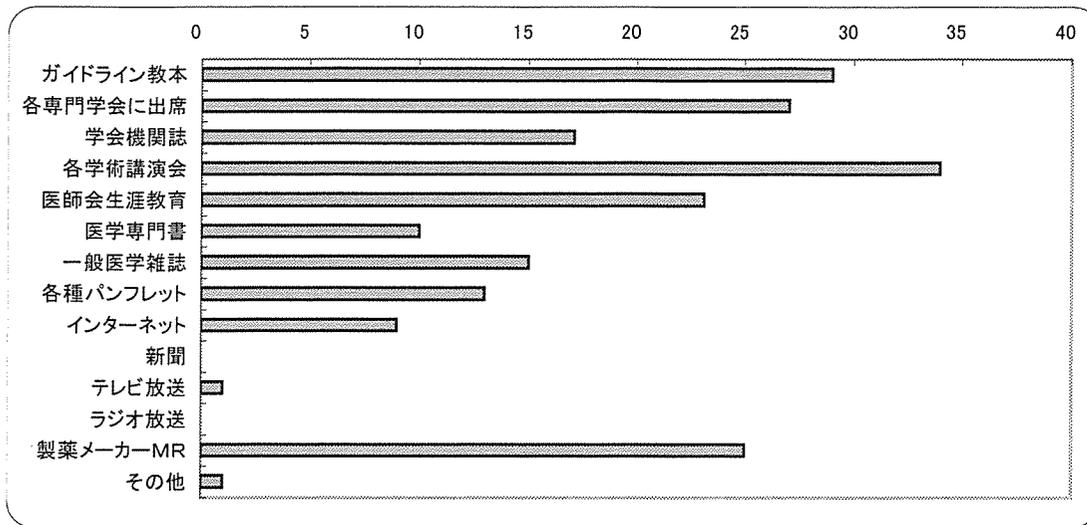
	よく知っている	おおよそ知っている	少し知っている	
成人喘息	21	38	18	無記入29
小児喘息	13	33	20	無記入40
アレルギー性鼻炎	30	32	14	無記入30
アトピー性皮膚炎	3	17	19	無記入67
蕁麻疹	1	8	15	無記入82
食物アレルギー	3	14	12	無記入77



3. どのような機会でごガイドラインをお知りになりましたか

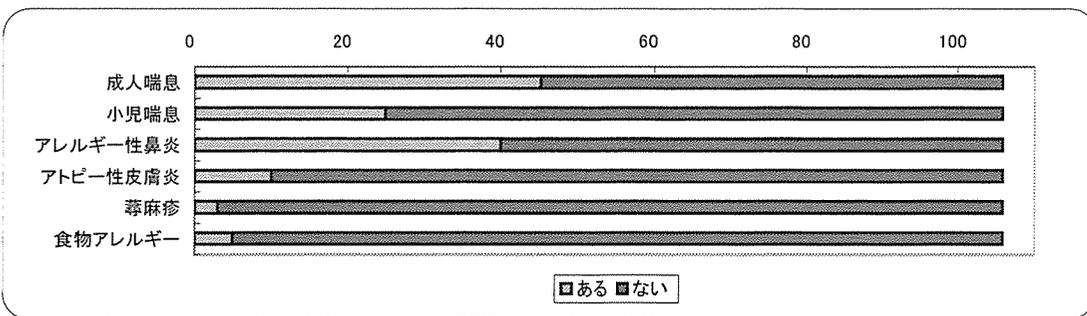
ガイドライン教本	29
各専門学会に出席	27
学会機関誌	17
各学術講演会	34
医師会生涯教育	23
医学専門書	10
一般医学雑誌	15
各種パンフレット	13
インターネット	9
新聞	0
テレビ放送	1
ラジオ放送	0
製薬メーカーMR	25
その他	1

その他:先輩に聞いて



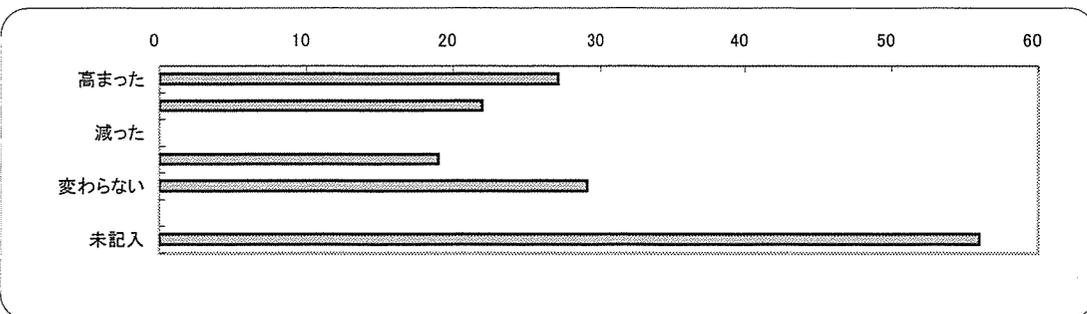
4. 実際に診療に利用されているガイドラインはございますか

ある	疾患	回数
ある	成人喘息	45
ある	小児喘息	25
ある	アレルギー性鼻炎	40
ある	アトピー性皮膚炎	10
ある	蕁麻疹	3
ある	食物アレルギー	5



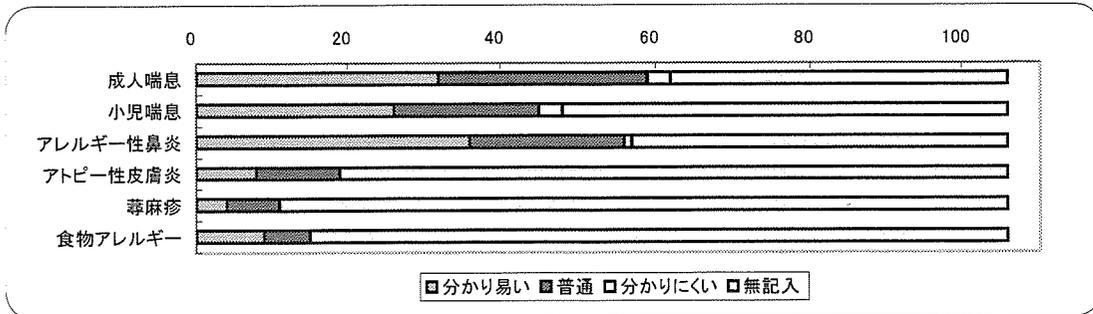
5. 前回のアレルギー研修会にご参加された先生にお伺いします  
その研修会のあと、ガイドラインに対する認識、それを利用する機会が増えましたか

認識	高まった	27
	変わらない	22
	減った	0
利用度	高まった	19
	変わらない	29
	減った	0
未記入		56



6. 利用されている先生に、ガイドラインは分かり易い、使い易いと感じられますか

	分かり易い	普通	分かりにくい	
成人喘息	32	27	3	無記入44
小児喘息	26	19	3	無記入58
アレルギー性鼻炎	36	20	1	無記入49
アトピー性皮膚炎	8	11	0	無記入87
蕁麻疹	4	7	0	無記入95
食物アレルギー	9	6	0	無記入91

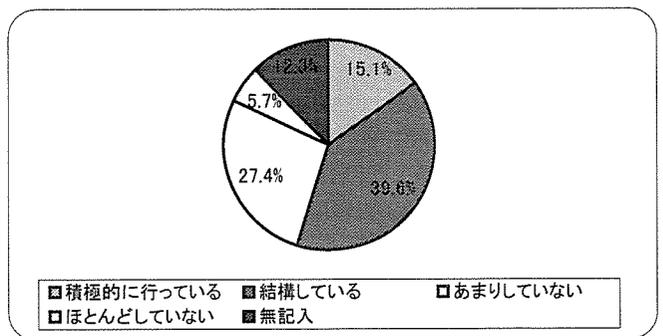


7. 疑問である、分かりにくい、使いづらい点はどんなところでしょうか。(記述式)

- ・アレルギー疾患は個人差が大きいため、ガイドライン通りにはいかない事が多い
- ・面倒かと思いますが、薬剤は一般名でなく商品名で記述して頂きたい
- ・アレルギー性鼻炎以外は診療をしないので、ただ知識として持っているのみで使いづらいか否かは実感がない
- ・volumeが多すぎる。もっと簡単に覚えやすいものにして欲しい
- ・吸入ステロイドは最適か？(適応例について)貼布剤は？

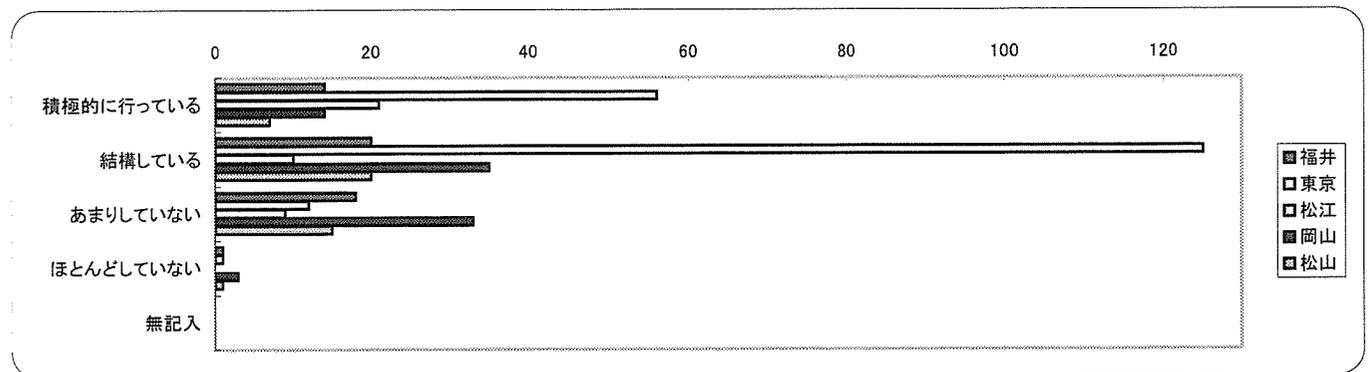
8. ガイドラインが奨めるアレルギー患者様の啓発、教育に力を入れていられますか

	点数	合計	平均値
積極的に行っている	7	16	112
結構している	5	42	210
あまりしていない	3	29	87
ほとんどしていない	1	6	6
無記入	0	13	0
合計		106	415
平均値			83



会場別点数

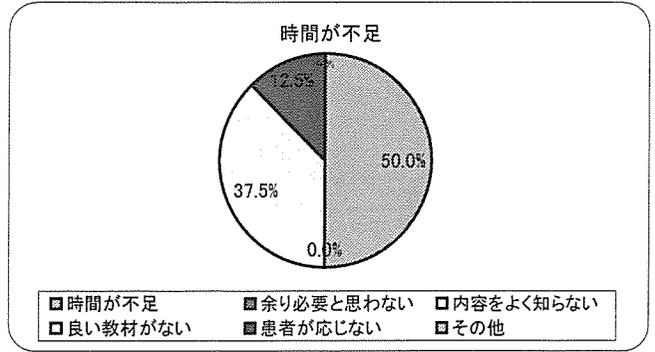
項目	会場				
	福井	東京	松江	岡山	松山
積極的に行っている	14	56	21	14	7
結構している	20	125	10	35	20
あまりしていない	18	12	9	33	15
ほとんどしていない	1	1	0	3	1
無記入	0	0	0	0	0
合計	53	194	40	85	43



(9. 8の質問で「あまりしていない」、「ほとんどしていない」を回答された場合の理由をお選び下さい)

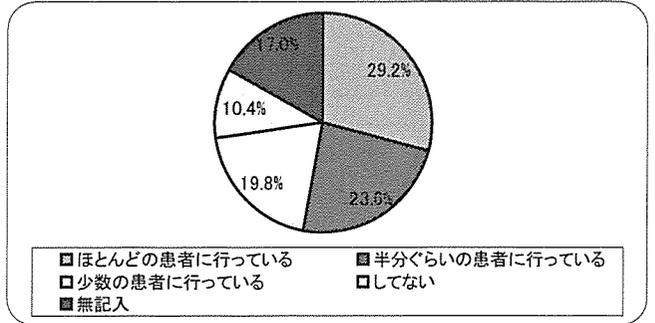
時間が不足	4
余り必要と思わない	0
内容をよく知らない	0
良い教材がない	3
患者が応じない	1
その他	0
合計	8

※東京都のみの設問



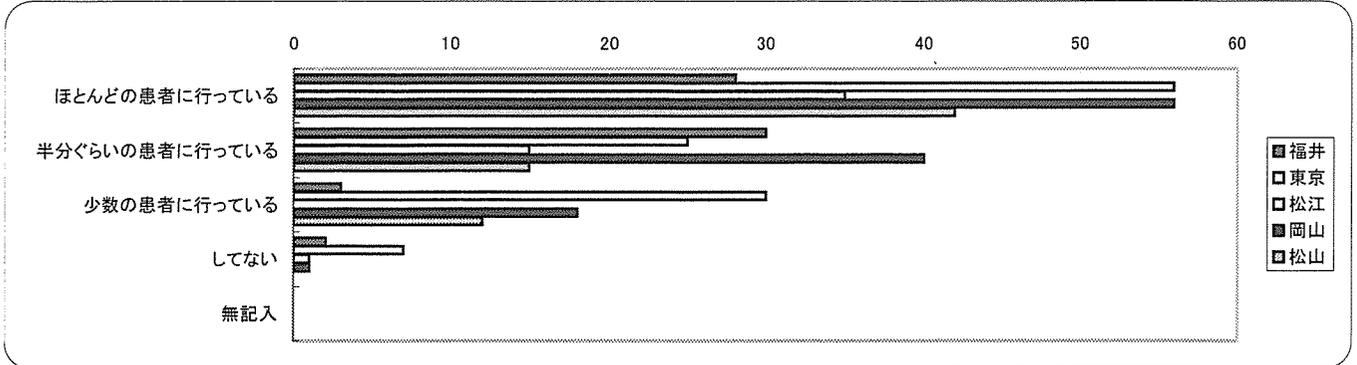
9. 喘息の患者様に吸入ステロイド療法を行っていますか

ほとんどの患者に行っている	31	217	7
半分ぐらいの患者に行っている	25	125	5
少数の患者に行っている	21	63	3
していない	11	11	1
無記入	18	0	0
合計	106	416	
平均値		83	



会場別点数

項目	会場				
	福井	東京	松江	岡山	松山
ほとんどの患者に行っている	28	56	35	56	42
半分ぐらいの患者に行っている	30	25	15	40	15
少数の患者に行っている	3	30	0	18	12
していない	2	7	1	1	0
無記入	0	0	0	0	0
合計	63	118	51	115	69



10. 今後、ガイドラインを利用してアレルギー診療を行われますか

	福井	東京	点数
これからも利用する	54	378	7
利用するつもりである	38	190	5
自分独自の診療方法を行う	5	15	3
分からない	6	6	1
無記入	6	0	0
合計	109	589	
平均値		118	

3人2.3重複あり

会場別点数

項目	会場				
	福井	東京	松江	岡山	松山
これからも利用する	42	154	49	84	49
利用するつもりである	40	60	10	55	25
自分独自の診療方法を行う	3	9	0	3	0
分からない	1	1	0	3	1
無記入	3	0	0	0	0
合計	89	224	59	145	75

